

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-60	高等学校	家庭	家庭基礎	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
7 実教	家基316	新図説家庭基礎		

1. 編修の趣旨及び留意点

家族・高齢者・子どもと積極的にかかわろうとする態度を身につけ、衣食住・消費生活に関する基本的な知識・技術を習得し、職業についても考え、社会で自立・自律して生きることができることを基本におき、編修した。また、高校生が実際に手を動かし主体的に行動することで知識・技術の定着を図ることができるよう、実践的なワークを豊富に掲載した。学習要素にかかわる身近な事例をコラムとして取り上げることで、高校生にとって理解しやすく平易な内容となるよう留意した。

2. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし、本書を編修した。

教育基本法第二条	
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・人にかかわることがら、衣食住、消費経済について、基礎・基本および身近な事例をていねいに記述することにより、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした。 ・子どもや子どもを育てる人への理解、高齢者の心身の状況や生活についての理解を深めることで、豊かな情操や道徳心を培うことができるよう配慮した。 ・栄養や調理の学習を通して、健康の維持・増進を図ることができるようにした。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的なワークを通し、個人の価値を尊重する態度を養い、その能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう配慮した。 ・衣食住および人にかかわる職業について扱い、職業について考えられるようにした。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい生き方を考えると同時に、他者とのつながりや社会とのかわりを意識するような記述を設けた。 ・男女がそれぞれ尊重し合い、共に協力して生活していくことの重要性を記述した。 ・持続可能な社会をつくるため必要な知識や行動を自分の問題としてとらえられるように配慮した。

<p>第4号</p> <p>生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・子ども・高齢者・地域社会とのかかわりの中で、生命の尊さを学べるよう配慮した。 ・身近な生活と環境との関係をもとにしながら、地球規模での環境も考えられるようにし、自然を大切にしていく態度や、環境の保全に寄与する態度が身につくようにした。
<p>第5号</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無形文化遺産である和食や日本の伝統的な衣服を掲載することにより、日本の伝統と文化を尊重できる態度を養うことが出来るようにした。 ・和洋中の調理実習題材を扱い、他国の衣服や住まいを紹介するなど、他国への理解を深められるよう配慮した。

3. 対照表

●全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
見開き2ページ展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元を短く区切り、その冒頭にこれから学習することがらを完結に示すことで、学習内容に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 	全般
実践コーナー・WORK	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的なワークを通して、生徒が実際に考え行動することで、真理を追究する態度を養うことができるよう配慮した（第1号）。さらに、自ら実践し解決する能力を伸ばし、創造性を培うことができるよう配慮した（第2号）。 ・一つのテーマについてグループで話しあうことにより、他者を重んじ、協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第3号）。 	p. 51 p. 183など p. 43など
Column	<ul style="list-style-type: none"> ・Columnの具体的な内容や事例を通して、幅広い知識と教養を身に付け（第1号）、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2号）。 	p. 8 p. 170など
巻頭カラーページ	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に従事する人が、これまでどのようなことに興味・関心を持ち、現在の職についてどのようなことを考え、行動してきたのかについて、インタビュー記事を掲載することで、職業を身近なものとしてとらえられるようにした（第2号）。 	巻頭カラーページ

●各章における特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編 第1章 自分らしい生き方と 家族	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における伝統的な人生儀礼を学ぶことにより、日本の伝統文化を尊重する態度を養えるよう配慮した（第5号）。 ・自立して生きることは、男女の関係、家族との関係、社会との関係の中で成し遂げられること、自分だけでなく他者に対しても大切に思う気持ちを学習できるようにした（第1・3・4号）。 ・家事労働および職業労働の重要性を述べ、その意義を考えることにより、勤労を重んずる態度を養うことができるようにした（第2号）。 ・男女が共に生活を築くという視点を盛り込んだ（第3号）。 	<p>p. 5</p> <p>p. 4～9</p> <p>p. 22</p> <p>p. 10～11</p> <p>p. 23</p> <p>p. 12～15</p>
第1編 第2章 子どもとかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達・発育の基礎的な知識を学ぶことにより、生命を大切に する心を養うことができるようにした（第4号） ・子どもとかかわるという学習を通して、子どもに対してどのような配 慮ができるのか考えることができるようにした（第1・3号）。 	<p>p. 30～41</p> <p>p. 26～27</p> <p>p. 48～50</p>
第1編 第3章 高齢者とかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状を知ることによって、これからの社会に向けての取り 組みについて考えられるようにした（第1号）。 ・高齢者とのかかわり、高齢者の心身の状況や生活を理解することによ り、生命の尊さを学ぶことができるようにした（第4号）。 	<p>p. 52～53</p> <p>p. 54～59</p>
第1編 第4章 社会とかかわる	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における社会保障制度などを学び、互助の理解を深め、ボランテ ィア活動への参加などを通して、他者への理解を深めるとともに、公 共の精神を養えるようにした（第3号）。 ・さまざまな人に対する理解を深めることによって、他人を思いやる気 持ちなどを培うことができるようにした（第1・4号）。 	<p>p. 60～61</p> <p>p. 64～65</p> <p>p. 62～63</p>
第2編 第1章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養および食品の基礎的な知識と、適切な食生活の重要性を述べ、健 やかな心身を育むことについて学べるようにした（第1号）。 ・ユネスコ無形文化遺産である和食を紹介し、改めて日本の伝統文化を 学ぶ機会となるよう配慮した（第5号）。 ・食生活と環境の関係を学ぶことにより、他国や自然とのかかわりにつ いて考えられるようにした（第4号）。 ・調理実習の手順を写真で掲載することにより、興味・関心を喚起し、 主体的に参加する態度を養い、健康な心身を保つための技術を習得で きるようにした（第1・2号）。 	<p>p. 70～86</p> <p>p. 73</p> <p>p. 94～95</p> <p>p. 102～113</p>
第2編 第2章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と風土の関係などを知ることにより、日本や世界の衣服の文化を 大切にすることを養えるようにした（第5号）。 ・繊維の知識および衣服の管理の知識を習得することにより、自らの衣 生活をよりよいものにしようとする力を養えるようにした（第1 号）。 ・自分たちが着ている衣服と環境とのかかわりを学ぶことで、他国を尊 重する態度や環境保全に取り組む態度を養えるようにした（第4・5 号）。 	<p>p. 118～121</p> <p>p. 122～133</p> <p>p. 134～135</p> <p>p. 143</p>

第2編 第3章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の気候・風土と住生活の関係を学ぶことにより、日本ではぐくまれてきた文化を尊重する心を養えるようにした。また、他国の住生活についてもあわせて考えられるようにした（第5号）。 ・住空間の成り立ちや、平面図を読み取るなどの学習を通し、自主的によりよい住生活について考え、創造できるようにした（第2号）。 	<p>p. 144～145</p> <p>p. 156</p> <p>p. 146～147</p>
第3編 第1章 消費行動を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての意思決定や契約の基礎的知識を学習することにより、自立した消費者として生活していく力をつけられるようにした（第2号）。 ・現在の生活と環境とのかかわりを学ぶことにより、自然を大切にすることや環境保全について考えられるようにした（第4号）。 	<p>p. 160～167</p> <p>p. 170～173</p>
第3編 第2章 経済的に自立する	<ul style="list-style-type: none"> ・経済計画の重要性を学び、自律的・創造的に、将来の生活設計および経済計画を考えられるようにした（第2号）。 	<p>p. 174～179</p>
生活設計	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のことがらを学び、人とかかわり、環境や自然とかかわりの中で、社会に生きる一員として自立し、責任を持ち、生活を営めるような内容とし、まとめとした（第1・2・4号）。 	<p>p. 184～185</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族関係、衣食住にかかわる基本的な内容については、中学校での学習内容も掲載して確実な定着を図り、実践的な学習につなげられるようにした。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を客観的に見つめ、将来の職業や生活を考えることができるような教材を盛り込んだ。 ・実践的なワークに取り組むことにより、基礎的な知識の定着を図り、より専門的な知識や技術の習得に取り組む姿勢を身につけられるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律や制度などを学び、それらの知識を深めるとともに、それらを通して今後の生活の課題解決に向けて考え、行動できる力を養えるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-60	高等学校	家庭	家庭基礎	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
7 実教	家基316	新図説家庭基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●全体的な配慮と特色

- (1) 本書は3編からなる構成とした。第1編は自分を見つめること、人とかかわって生きること、社会の一員として生きること、の内容を盛り込んだ。第2編では、食生活・衣生活・住生活の基本的な知識・技術を学べるようにした。第3編においては、第1章「消費行動を考える」で、生徒に消費者としての自覚を促し、さらに消費者の視点から環境分野まで学べるようにした。第2章に「経済的に自立する」を配置し、経済のしくみやこれからの経済的自立にむけて考えられるようにした。
- (2) 環境に関する具体的な内容は、食生活・衣生活・住生活の中で学べるよう、第2編の食・衣・住の各分野に記述した。環境全般の記述については、消費行動との関連をはかるため、第3編の1章に配置した。
- (3) 原則見開き2ページ展開とし、各節に学習のねらいを示すことにより、生徒が学習内容に対する興味・関心を持ち、要点を正確に把握できるよう配慮した。
- (4) 各章末に「実践コーナー」を設け、生徒が実際に手を動かし行動することによって、学習を深め、知識・技術の定着を図ることができるようにした。
- (5) 資料を豊富に掲載し、「Column」には本文を具体化する内容や事例などをとりあげ、理解を深められるようにした。
- (6) 巻頭・巻末カラーページでは、職業インタビューを掲載し、職業観育成の一助となるよう配慮するとともに、生徒の学習経験に応じて学ぶことができるよう一部中学校の既習事項である内容も掲載した。

●具体的な配慮と特色

第1編 人とかかわって生きる

第1章 自分らしい生き方と家族

- (1) 章の中に時間軸を取り入れた。高校生の今を見つめるところからスタートし、青年期の自立→労働→結婚→法律→課題と学習を展開していくことで、生徒が今を起点に将来を見据えることができるようにした。
- (2) 自分自身を見つめるとともに、青年期における他者との関係や男女共同参画社会の動きなどにも目を向けられるような内容とした。
- (3) 現在の労働をとりまく状況を知り、就業について考えられるようにした。また、家庭や地域での仕事は、職業と同様に生活に欠かせない労働であることを記述した。
- (4) 家族の役割やあり方について考えられるようにするとともに、生徒がこれから家族・家庭をつくっていくという視点から、パートナーとの出会い、子ども時代から高齢期までの人の一生における家族関係についての理解が深められるようにした。

- (5) 家族に関する法律については、結婚や親子などの基本的な内容を取り上げた。
- (6) 現在の世帯構成の特徴について扱い、家族の抱える問題などを学習できるようにした。
- (7) 生徒が「自立」について具体的に考えられるよう、実践的な教材を取り上げた。

第2章 子どもとかかわる

- (1) 子どもの発達においては、心身両面の発達段階に応じた保育の知識と技術を系統立てて学び取れるように配慮した。子どもの生活に関する内容では、生活習慣、遊び、食生活と衣生活、健康などについての基本的な内容を記述し、実践的な教材を取り上げることによって、その内容の定着をはかれるようにした。
- (2) 生命に対する責任を持ち、子どもを育てていくという観点から、青年期における健康管理、育児性、妊娠などについての記述を設け、生命を尊ぶ気持ちを身につけられるようにした。
- (3) 子どもの人間形成にとって、親や家庭、社会の環境がいかに関重要であるかを考えられるものとした。さらに、子どもが育てられていく中で、親が保育者としての責任を果たすために、どのような法律や社会的支援があるのかを学び、社会全体で子どもを育てていくという視点を持てるようにした。
- (4) 生徒が子どもについての理解を深め、子どもに積極的にかかわろうとする態度を養えるよう、実践的な教材を取り上げた。

第3章 高齢者とかかわる

- (1) 高齢者の生活を理解できるような資料を掲載し、高校生が高齢者への理解を深められるように配慮するとともに、高齢者を自分の将来として捉えられるような記述とした。さらに、高齢者と積極的にかかわろうとする態度を養えるよう、実践的な教材を取り上げた。
- (2) 高齢社会の現状について理解が深められるようにした。高齢者の介護サービスについては、介護保険制度を取り上げ、地域社会における高齢者サービスのしくみの基礎について学べる内容とした。

第4章 社会とかかわる

- (1) 社会福祉については、自分とは無関係であるにとらえられがちである内容であるため、生徒が自分自身にかかわることがらであることが理解できるような記述を工夫した。
- (2) ボランティア活動については、地域社会に生きる一構成員であることを自覚できるような記述とした。
- (3) 生徒がさまざまな人についての理解を深められるよう、実践的な教材を取り上げた。

第2編 生活をつくる

第1章 食生活をつくる

- (1) 生徒自身の食生活の課題を見つけ、よりよい食生活をつくることができるよう、現代の食生活の問題点を学び、コミュニケーションとしての食事や無形文化遺産としての和食など、栄養素以外の「食」の意味についても学べるような記述とした。
- (2) 栄養・食品の知識、食品の選択・表示、衛生的な取扱いを身につけられるようにした。
- (3) これからの食生活を広い視野で考えられるよう、日本の食料事情や自分自身の食生活と環境とのかかわりを記述した。
- (4) 栄養・食品、衛生などの学習を経た後、献立作成と調理技術を学び、それぞれの知識を総合的に生かしながら調理を行うことができるよう実習例を示し、相互に関連づけられるようにした。
- (5) 調理実習について
実習1～4では、弁当および昼食を取り上げ、調理の基本的な技術の定着を図るとともに、規則正しい食生活を身につけられるようにした。実習5ではデザートを取り上げ、その他の実習題材と組み合わせられるようにした。実習6～8では主として日常食を取り上

げ、調理技術の習得をはかり、健康的な食生活を営む力を培うことができるようにした。
また、題材ごとにエネルギー・たんぱく質・脂質・塩分の値を示し、食事摂取基準との関連をはかることができるようにした。

(6) 巻末カラーページにおいて、調理技術にかかわる基礎的な教材を入れ、技術の定着をはかり、安全に配慮できるようにした。

(7) 生徒が食を通して他者とコミュニケーションをとることができるよう、実践的な教材を取り上げた。

第2章 衣生活をつくる

(1) 衣服の起源にふれることにより、「人間にとって衣服とは何か」を考えることで、衣生活分野に興味・関心を持てるようにした。

(2) 衣服の機能や素材、管理の知識を学ぶことにより、実際の衣生活に結び付けられるようにした。また、快適な衣生活を送るために、衣服に関連する事故やユニバーサル・デザインにもふれた。

(3) 衣生活の自立の観点から手縫いとミシンの使い方を扱い、基礎的な技術が定着できるようにした。

(4) 生徒が実践的な教材を通して、環境や科学的な視点で衣生活を考えられるようにした。

第3章 住生活をつくる

(1) 住まいの機能では、人と住まいのかかわり、住まいと風土とのかかわり、家族と住まいのかかわりについて知ることにより、住居が人間の生活行為の器として必要な諸条件を持つことを理解できるようにした。また、日本の住まいがどのように変化してきたのかを生活様式とかかわらせて学習できるようにした。

(2) 住まいの計画では家族構成などのかかわりを学習し、住居の主体的な選択ができるようにした。

(3) 室内の環境については、室内環境の条件、メンテナンス、住宅の安全についての知識を習得し、快適な室内環境をつくることができるようにした。

(4) 現在の住生活の現状や、住環境と地域社会、自然環境や社会環境との調和などについて学ぶことにより、これからの住まいや住環境のあり方についての方向性を考えられるようにした。

(5) 生徒が実践的な教材を通して住まいに興味・関心を持ち、自立への一助となるようにした。

第3編 消費者として自立する

第1章 消費行動を考える

(1) 暮らしの多くの部分を消費行動が占めていることを理解できるようにし、消費行動を考える導入として、意思決定の流れを具体的に説明した。

(2) 販売方法・支払い方法の多様化・複雑化の現状と対応できる知識を習得できるよう具体的な資料を取り上げた。

(3) 消費生活の現状や課題、消費者問題などにふれ、生活者として主体的に問題を解決していくことができるような内容とした。

(4) 自らの消費行動を見直す観点から環境問題を取り扱った。持続可能な社会をつくっていくために循環型社会と低炭素社会を取り上げ、消費者・生活者としてどのような課題があるのか、また、主体的にどのように解決したらよいかを学習できるようにした。

(5) 生徒が実践的な教材を通して、生活の中にある「消費」に目を向けられるようにした。

第2章 経済的に自立する

(1) 家計と経済社会のしくみについて理解できるように記述とし、短期的な収入・支出の特徴と最近の家計の特徴を学べるようにした。

(2) 生徒が長期的な視点で将来の経済計画の必要性を具体的に捉えられるよう、実践的な教材を取り上げ、興味・関心を喚起できるよう配慮した。

(3) 生徒が今後の人生やアクシデントについて考えられるよう、実践的な教材を取り上げた。

生活設計

「家庭基礎」のまとめとして位置づけるため、学習してきた職業選択、経済設計、家族や身近な人との暮らし、生活時間、地域や世界との関係を取り上げ、将来の自分の生き方について考えられるようにした。

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

これまで学んできた生活にかかわる事項から、課題を発見し、より豊かな生活をつくるため、「家庭基礎」のまとめの学習としても取り扱えるように、ホームプロジェクトと学校家庭クラブを巻末に構成した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 第1章 自分らしい生 き方と家族	1. 人生80年を見通す	(1) ア (イ)	p. 4-5	8
	2. 今の自分を見つめる	(1) ア (ア)	p. 6-7	
	3. 青年期の生き方について考える	(1) ア (ア)	p. 8-9	
	4. 労働について考える	(1) ア (ア) (イ)	p. 10-11	
	5. 共に働くことを考える	(1) ア (ア) (イ)	p. 12-13	
	6. 家族って何だろう	(1) ア (ア) (イ)	p. 14-15	
	7. 家族に関する法律の理念と背景	(1) ア (イ)	p. 16-17	
	8. 家族にかかわる法律	(1) ア (イ)	p. 18-19	
	9. 現代の家族をとりまくことから	(1) ア (ア)	p. 20-21	
第1編 第2章 子どもとかか わる	1. 子どもを知る	(1) イ (ア)	p. 26-27	8
	2. 青年期の健康と生命の芽ばえ	(1) イ (ア)	p. 28-29	
	3. からだの発達	(1) イ (ア)	p. 30-31	
	4. 心の発達	(1) イ (ア)	p. 32-35	
	5. 子どもの生活習慣・健康管理・安全	(1) イ (ア)	p. 36-37	
	6. 子どもの食生活・衣生活	(1) イ (ア)	p. 38-39	
	7. 子どもと遊び	(1) イ (ア)	p. 40-41	
	8. 親になることを考えよう	(1) イ (ア)	p. 42-43	
	9. すこやかに育つ環境	(1) イ (イ)	p. 44-45	
	10. 子どもの権利と福祉	(1) イ (イ)	p. 46-47	
第1編 第3章 高齢者とかか わる	1. 高齢社会に生きる私たちの暮らし	(1) ウ (イ)	p. 52-53	4
	2. 高齢者の心身の変化	(1) ウ (ア)	p. 54-55	
	3. 高齢者の生活	(1) ウ (ア)、 エ (ア)	p. 56-57	
	4. 豊かな高齢期を迎えるしくみ	(1) ウ (ア)、 エ (ア)	p. 58-59	
第1編 第4章 社会とかかわ る	1. 支えあう暮らしとは	(1) エ (ア)	p. 60-61	3
	2. 私たちの社会福祉	(1) エ (イ)	p. 62-63	
	3. 地域社会の一員としてのボランティア活動	(1) エ (イ)	p. 64-65	

第2編 第1章 食生活をつくる	1. 私たちの食生活と健康	(2) ア (ア)	p. 70-71	10
	2. 食を楽しむ	(2) ア (ア)	p. 72-73	
	3. 食品の栄養素とからだの成分	(2) ア (ア)	p. 74	
	4. 炭水化物	(2) ア (ア)	p. 75-77	
	5. 脂質	(2) ア (ア)	p. 78-79	
	6. たんぱく質	(2) ア (ア)	p. 80-81	
	7. ミネラル	(2) ア (ア)	p. 82-83	
	8. ビタミン	(2) ア (ア)	p. 84-85	
	9. その他の食品	(2) ア (ア)	p. 86-87	
	10. 食品の選択と表示	(2) ア (イ)	p. 88-89	
	11. 食品の衛生	(2) ア (イ)	p. 90-91	
	12. 食料自給率と食品の安全性	(2) ア (ア)	p. 92-93	
	13. 食生活と環境とのかかわり	(2) ア (ア)	p. 94-95	
	14. 必要な栄養素量－食事摂取基準－	(2) ア (ア)	p. 96-97	
	15. 献立作成	(2) ア (ア)	p. 98-99	
	16. 調理の基本	(2) ア (イ)	p. 100-101	
調理実習	(2) ア (イ)	p. 102-113		
第2編 第2章 衣生活をつくる	1. 人と衣服のかかわり	(2) イ (ア)	p. 118-119	8
	2. 衣服の機能	(2) イ (ア)	p. 120-121	
	3. 衣服の素材を見てみよう	(2) イ (ア)	p. 122-123	
	4. 衣服素材の性能	(2) イ (ア)	p. 124-125	
	5. 繊維の改質・加工	(2) イ (ア)	p. 126-127	
	6. 衣生活の計画	(2) イ (イ)	p. 128-129	
	7. 衣服の手入れ	(2) イ (イ)	p. 130-131	
	8. 家庭での洗濯・保管	(2) イ (イ)	p. 132-133	
	9. 衣生活と資源・環境	(2) イ (イ)	p. 134-135	
第2編 第3章 住生活をつくる	1. 人と住まいのかかわり	(2) ウ (ア)	p. 144-145	6
	2. 住空間の成り立ちと平面計画	(2) ウ (ア)	p. 146-147	
	3. 健康に配慮した室内環境と住まいの管理	(2) ウ (イ)	p. 148-151	
	4. 安全に配慮した室内環境	(2) ウ (イ)	p. 152-153	
	5. これからの住まいを考える	(2) ウ (イ)	p. 154-155	
第3編 第1章 消費行動を考える	1. 主体的な消費行動と契約	(2) エ (ア)	p. 160-161	6
	2. 多様化する販売方法と問題商法	(2) エ (ア)	p. 162-163	
	3. 適切な契約のための制度・法律	(2) エ (ア)	p. 164-165	
	4. 多様化する支払方法	(2) エ (ア)	p. 166-167	
	5. 消費者の権利と責任	(2) エ (ア)	p. 168-169	
	6. 循環型社会をいかに構築するか	(2) オ (ア) (イ)	p. 170-171	
	7. 地球温暖化にどう向き合うか	(2) オ (ア) (イ)	p. 172-173	
第3編 第2章 経済的に自立する	1. 経済のなかの家計	(2) エ (イ)	p. 174-175	3
	2. 日々の収入・支出を把握する	(2) エ (イ)	p. 176-177	
	3. 長期的な経済計画を立てる	(2) エ (イ)	p. 178-179	
生活設計		(2) カ	p. 184-185	2
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		(3)	p. 186-189	2
			計	60

(備考) 配当時間数については、履修単位数を2単位として各章の授業時間数を示した。